

年金不信が極度に高まっています。「消えた年金」をはじめとした、ずさんな運用が不信を招いたことは明らかですが、現行の年金制度自体も大きな欠陥を抱えています。それは「**賦課方式**」というも

その上、賦課方式には世代による格差が甚だしいという問題もあります。試算では2005年時点で70歳代の方は自らが負担した保険料の約8倍もの年金を受け取れますが、40歳以下の方は事実上「**払わされ損**」

そうなの？どれくらい？？
 になることが指摘されています。

今、やらなければいけないこと

将来世代への責任を果たす政治を

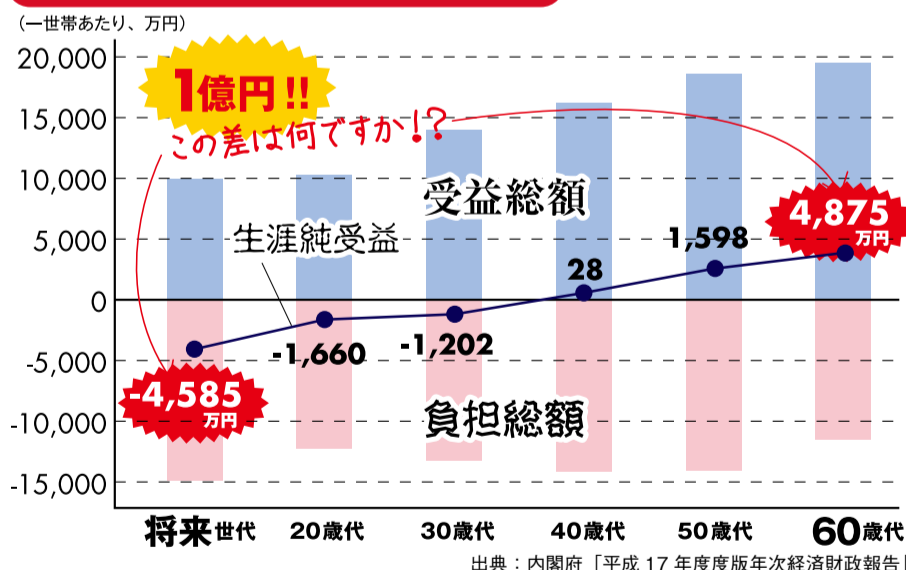
ので、現役世代が支払った保険料が自分の年金として積み立てられず、お年寄りの年金給付に回される仕組みのことです。自分の将来のために貯めたつものお金が、親や祖父母への仕送りに使われてしまっているようなものです。

今後、少子高齢化によっておカネの払い手である現役世代が減少し、逆にもらう側のお年寄りが増える一方ですから、この制度はもはや成り立ちません。

万円の支払超過となります。**世代によって差引き「1億円近い不公平」が生じるのです。**

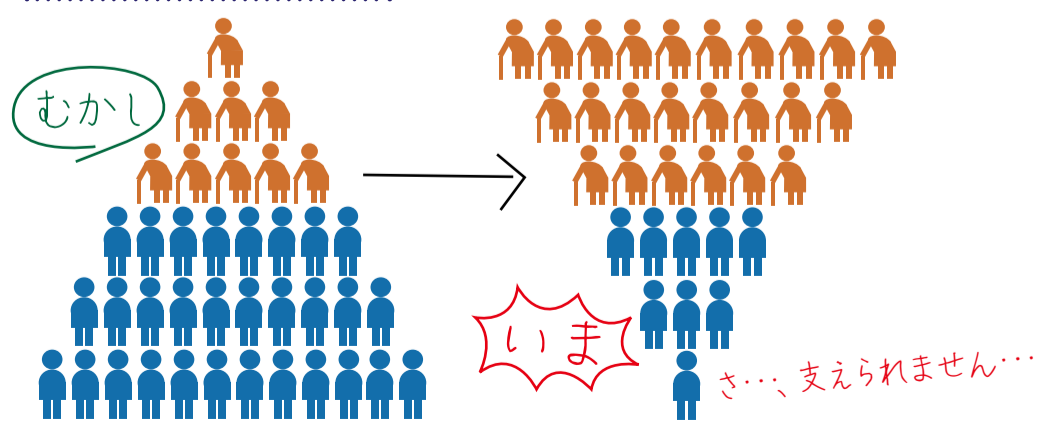
そ、そんなに!?

政府による世代会計の試算 (2003年度末時点)



コワイです

賦課方式の現実



これから生まれてくる将来世代になると事態はもっと深刻になります。返済しなければならない公的債務の総額は2,500兆円にものほり、**1人当たり1億2,200万円という途方もない額の借金を生まれながらにして背負わされるのです。**平均

賃金に照らして12年間の夕ダ働きを強いられるほど

の「巨大な借金を、親の世代から押し付けられる

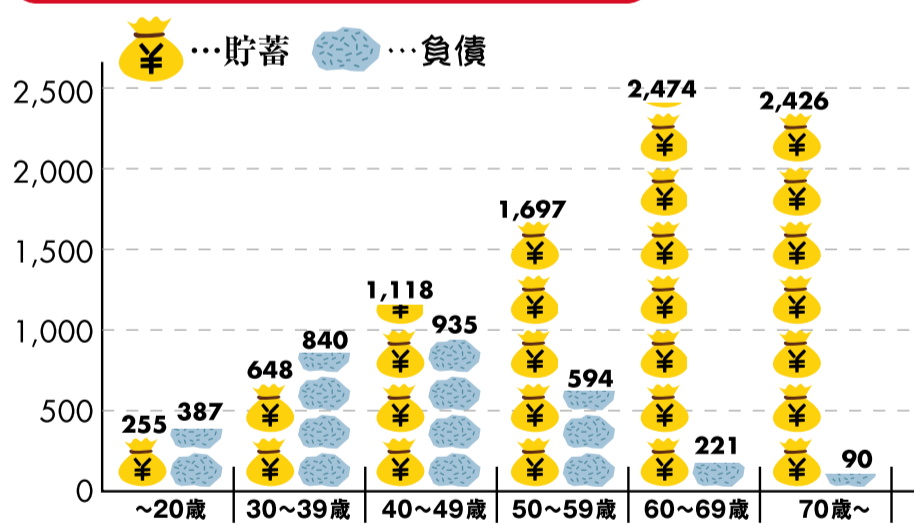
のです。こんな馬鹿げた話があるでしょうか。 ちょっと...カンベンしてください
 こうなることは何十年も前から分かっていたにも
 かかわらず、政治家も官僚も何の手も打ちませんで



した。
 これから先、いわゆる団塊の世代が相次いで65歳
 を迎え、年金も医療も介護も財政的な逼迫状況は
 いよいよ深刻になります。先送りすれば事態は悪
 くなる一方です。今こそ将来世代を視野に入れた
 社会保障制度のゼロからの作り直しをしなければな
 りません。 **もはや上の世代の政治家や官僚に任
 せておけないのは明らかです。** 私たちの世代が
 責任を持って、自分たちの手で新しい社会保障制度

づくりをしなければなりません。
どうやって?

世帯当り平均貯蓄・負債額 (万円、2007年末)



具体的には、自分たちが払った保険料が自分たちに
 返ってくる「**積立方式**」を年金制度に導入すべきで
 す。世界に類を見ない急速な少子高齢化、そして低
 成長と低インフレ率が見込まれる社会においては積
 立方式が合っています。何よりも現役世代の「払い
 損」がなくなります。移行には半世紀近くの長い年
 月が必要ですが、今やらなければ問題の解決が不可
 能になってしまいます。現状のまま放置しておいては

いけません。現存する140兆円の年金積立金も生
 かし、移行期の負担を長い年月で世代にわたって平
 準化すれば、**実現は可能です。**

カキザワさん、やってくれるの？
 中途半端にしない？

若い世代の人たちは、将来に対する大きな不安を抱
 えています。働き続けることができるのか、子ども
 を生み育てることができるのか、歳をとったら年金
 で生活できるのか、病気になったらお医者さんに診
 てもらえるのか……。 **生きる希望の持てない社
 会に決して活力は生まれません。**

将来に向けて安心できる持続可能な社会保障制度
 への **ゼロからの作り直し**こそが、今、政治が直面
 しなければならない喫緊の課題であり、それは社会
 に活力を取り戻す最大の景気対策にもなると私は考
 えています。未来に希望を取り戻せれば、**日本人に
 は新しい価値を作り出し、それを世界に発信し、自
 らの経済を成長させていくだけの力が備わっている
 はず**だからです。その実現に向けて私は全力で努力
 していきたいと思えます。

**社会の不公平を正すため
 捨て身で働きます！
 どうか私にお力をお貸しください。
 そしてこの国の未来を
 一緒に創っていきましょう。**



柿沢 未途